

ここが温かいよ!日本—日本の現金文化—

沈香凝

皆さん、こんにちは。今日は 私が日本で生活しながら感じた「現金文化の温かさ」についてお話ししたいと思います。

先ほど、サポーターさんがすでに紹介したように、私の出身地は中国です。中国では今キャッシュレス決済が非常に普及していて、普段の生活で現金を使う場面はほとんどありません。写真のように、お年寄りがよく行く市場や祭りのときの屋台でさえもキャッシュレス決済が基本となっています。そのため、日本に来たばかりの頃、ここでは意外と現金が使われていることにびっくりしました。しかし、日本で生活していく中で、この現金文化の背景にある温かさや日本らしさを感じるようになりました。

皆さん、こんな場面を見たことがありますか？スーパーのレジでお年寄りが店員さんに現金を渡す間に、笑ってお喋りしています。「最近寒くなったね」と季節の話をしたり、「このお菓子、孫が好きなよ」と微笑ましいエピソードを共有したりしています。それに対して店員さんも笑顔で応じています。私は、このような何気ないやり取りを何度も目にしました。そのたびに心が温かくなりました。

一方で、中国ではキャッシュレス決済の便利さから、レジでのやり取りが速やかに終わることが多く、このような会話が少なくなりました。私はこの状況に少し寂しさを感じています。確かに、現金は不便ですが、現金を使うことで、人と人が直接触れ合うコミュニケーションの場が生まれます。こういった小さなつながりこそ、人間関係が希薄化する現代社会において、とても大切だと思います。

また、私はハイキングが好きで時々山奥に行きます。そこで、トイレの入り口に「100円のご協力をお願いします」と書いた小さな募金箱を見かけます。100円を払ってトイレを使うたびに、「この100円が、大変なトイレ整備をしてくださった方々への感謝の気持ちなんだな」と感じます。特に電波がない場所では、現金だからこそ、その重みを感じ取れ、感謝の気持ちを届けることができます。

以上の経験から、私は現金を使うことの意味について改めて考えました。それは、単なる物やサービスの交換ではなく、人と人との温かいつながりや感謝の気持ちを感じられることだと気づきました。

日本の現金文化には、こうした目に見えない価値があるんだと思います。

以上で私のスピーチを終わります。ご清聴いただき、ありがとうございました。